

【事例2】相続時精算課税を適用する場合

私は、父から宅地と上場株式 5,000 株の贈与を受けました。
平成 26 年 1 月 1 日において、父は 65 歳以上、私は 20 歳以上ですので、相続時精算課税を選択して申告します。

提出用 税務署 提出

板橋 税務署長 平成 27 年 2 月 20 日提出

平成 26 年分贈与税の申告書 F D 4 7 2 4

〒XXXX-XXXX (電話 XXX-XXX-XXXX)

住所 板橋区〇〇△丁目×番×号

フリガナ オソザワ ハナコ

氏名 乙沢 花子

生年月日 3 4 9 年 0 8 月 2 8 日 職業 自営業

税務署整理欄 (記入しないでください。)

整理番号 申告書提出年月日 財産 事案 災害等延長期限 細目 処理 出国年月日 コード 訂正 死亡年月日 関与区分 修正

第一表 (平成 26 年分以降用) (住宅取得等資金の非課税の申告は申告書第一表の二又は第一表の三と、相続時精算課税の申告書第一表と、一緒に提出してください。)

贈与者の住所・氏名 (フリガナ) 申告者との続柄・生年月日

住所 氏名 続柄 生年月日 明・大・昭・平 年 月 日

住所 氏名 続柄 生年月日 明・大・昭・平 年 月 日

住所 氏名 続柄 生年月日 明・大・昭・平 年 月 日

住所 氏名 続柄 生年月日 明・大・昭・平 年 月 日

取得した財産の明細

種類 細目 利用区分・数 単価 価額

所在場所等 固定資産税評価額

財産を取得した年月日

財産の価額

平成 年 月 日

平成 年 月 日

平成 年 月 日

平成 年 月 日

課税部分

財産の価額の合計額 (課税価格) ①

配偶者控除額 (右の事実該当する場合には、... 私は、今回の贈与者からの贈与について初めて贈与税の配偶者控除の適用を受けます。)(最高 2,000 万円) ②

基礎控除額 ③

②及び③の控除後の課税価格 (①-②-③) 【1,000 円未満切捨て】 ④

④に対する税額 (申告書第一表(控用)の裏面の「贈与税の速算表」を使って計算します。) ⑤

外国税額の控除額 (外国にある財産の贈与を受けた場合で、外国の贈与税を課せられたときに記入します。) ⑥

医療法人持分税額控除額 (「医療法人持分納税額予税額・税額控除額の計算書 (贈与税)」の B の金額又は「医療法人持分納税額予税額・税額控除額の計算書 (贈与税) (別表)」の B の金額) ⑦

差引税額 (⑤-⑥-⑦) ⑧

相続時精算課税分 (「暦年課税分」のみ申告される方は、⑨及び⑩欄の記入の必要はありません。なお、「相続時精算課税分」の申告をされる方は、第二表「平成 年分贈与税の申告書 (相続時精算課税の計算明細書)」を作成してください。)

特定贈与者ごとの課税価格の合計額 (第二表「平成 年分贈与税の申告書 (相続時精算課税の計算明細書)」の ⑪ の金額の合計額) ⑨

特定贈与者ごとの差引税額の合計額 (第二表「平成 年分贈与税の申告書 (相続時精算課税の計算明細書)」の ⑫ の金額の合計額) ⑩

課税価格の合計額 (①+⑨) ⑪

差引税額の合計額 (納付すべき税額 (⑧+⑩)) 【100 円未満切捨て】 ⑫

農地等納税額予税額 (「農地等の贈与税の納税額予税額の計算書」の ⑬ の金額) ⑬

株式等納税額予税額 (「株式等納税額予税額の計算書 (贈与税)」の 3 の ⑭ の金額又は「株式等納税額予税額の計算書 (贈与税) (別表)」の 2 の ⑮ の金額) ⑭

医療法人持分納税額予税額 (「医療法人持分納税額予税額・税額控除額の計算書 (贈与税)」の A の金額又は「医療法人持分納税額予税額・税額控除額の計算書 (贈与税) (別表)」の A の金額) ⑮

申告期限までに納付すべき税額 (⑫-⑬-⑭-⑮) ⑯

この申告書が修正申告書である場合

差引税額の合計額 (納付すべき税額) の増加額 (⑫-第三表「平成 年分贈与税の修正申告書 (別表)」の ⑰) ⑰

申告期限までに納付すべき税額の増加額 (⑯-第三表「平成 年分贈与税の修正申告書 (別表)」の ⑱) ⑱

作成税理士の事務所所在地・署名押印・電話番号

☐ 税理士法第 30 条の書面提出有

☐ 税理士法第 33 条の 2 の書面提出有

通信日付印

確認者

(資 5-10-1-1-A 4 統一) (平 26.10)

暦年課税に係る贈与財産がない場合には記入する必要はありません。

転記します。

転記します。

○ 新たに相続時精算課税の適用を受ける場合には、申告書第一表、第二表に加えて、「相続時精算課税選択届出書」（78 ページ参照）の提出が必要となります。

提出用

平成26年分贈与税の申告書（相続時精算課税の計算明細書）

FD4733

受贈者の氏名
乙 沢 花 子

次の特例の適用を受ける場合には、□の中にレ印を記入してください。
☐ 私は、租税特別措置法第70条の3第1項の規定による相続時精算課税選択の特例の適用を受けます。（単位は円）

特定贈与者の住所・氏名（フリガナ） 申告者との続柄・生年月日	左の特定贈与者から取得した財産の明細					財産を取得した年月日	
	種 類	細 目	利用区分・路線等	数 量	単 価	財 産 の 価 額	
住 所 豊島区〇〇△丁目△番△号	土地	宅地	自用地	86.50㎡	300,000	平成26年08月28日	
	板橋区〇〇△丁目×番						
フリガナ オソ ザワ タ ロウ 氏 名 乙 沢 太 郎	有価証券	上場株式等	〇〇株式会社	5,000株	290	平成26年10月06日	
	千代田区〇〇町×丁目×番×号 △△証券△△支店						
続 柄 父						平成 年 月 日	
生 年 月 日 3 20 年 01 月 15 日							
財産の価額の合計額（課税価格） 19 27400000							
特別控除額の合計額（最高2,500万円） 20 25000000							
特別控除額の残額（2,500万円－⑳） 21 25000000							
特別控除額（⑲の金額と㉑の金額のいずれか低い金額） 22 25000000							
翌年以降に繰り越される特別控除額（2,500万円－㉑－㉒） 23 0							
㉒の控除後の課税価格（⑲－㉒）【1,000円未満切捨て】 24 24000000							
㉒に対する税額（㉒×20％） 25 4800000							
外国税額の控除額（外国にある財産の贈与を受けた場合で、外国の贈与税を課せられたときに記入します。） 26 0							
差引税額（㉕－㉖） 27 4800000							
上記の特定贈与者からの贈与により取得した財産に係る過去の相続時精算課税分の贈与税の申告状況	申告した税務署名	控除を受けた年分	受贈者の住所及び氏名（「相続時精算課税選択届出書」に記載した住所・氏名と異なる場合にのみ記入します。）				
	署	平成 年分					
	署	平成 年分					
	署	平成 年分					

（注）上記の欄に記入しきれないときは、適宜の用紙に記載し提出してください。

第二表（平成26年分以降適用）

「相続時精算課税選択の特例」（62ページ参照）の適用を受けない場合には□にレ印を記入する必要はありません。

記入もれが多い箇所ですので注意してください。

事例2

○ 上記に記載された特定贈与者からの贈与について初めて相続時精算課税の適用を受ける場合には、申告書第一表及び第二表と一緒に「相続時精算課税選択届出書」を必ず提出してください。なお、同じ特定贈与者から翌年以降財産の贈与を受けた場合には、「相続時精算課税選択届出書」を改めて提出する必要はありません。

※ 税務署整理欄	整理番号	名簿	届出番号
財産細目コード	確認		

※印欄には記入しないでください。 (資5-10-2-1-A4統一) (平26.10)



相続時精算課税選択届出書

(平成21年分以降適用)

平成 27 年 2 月 20 日	住所又は居所 板橋区〇〇△丁目×番×号	〒×××-××××電話(×××-×××-××××)
板橋 税務署長	フリガナ オツザワ ハナコ	
	氏名 (生年月日) 乙 沢 花 子 (大・昭・平 49 年 8 月 28 日)	(印) 沢
	特定贈与者との続柄 長女	

私は、下記の特定贈与者から平成 26 年中に贈与を受けた財産については、相続税法第21条の9第1項の規定の適用を受けることとしましたので、下記の書類を添えて届け出ます。

記

1 特定贈与者に関する事項

住所又は居所	豊島区〇〇△丁目△番△号
フリガナ	オツザワ タ ロウ
氏名	乙 沢 太 郎
生年月日	明・大・昭・平 20 年 1 月 15 日

2 年の途中で特定贈与者の推定相続人となった場合

推定相続人となった理由	
推定相続人となった年月日	平成 年 月 日

3 添付書類

次の(1)～(4)の全ての書類が必要となります。

なお、いずれの添付書類も、贈与を受けた日以後に作成されたものを提出してください。

(書類の添付がなされているか確認の上、□に✓印を記入してください。)

- (1) ☒ 受贈者の戸籍の謄本又は抄本その他の書類で、次の内容を証する書類
- ① 受贈者の氏名、生年月日
 - ② 受贈者が特定贈与者の推定相続人であること
- (2) ☒ 受贈者の戸籍の附票の写しその他の書類で、受贈者が 20 歳に達した時以後の住所又は居所を証する書類(受贈者の平成 15 年 1 月 1 日以後の住所又は居所を証する書類でも差し支えありません。)
- (3) ☒ 特定贈与者の住民票の写しその他の書類で、特定贈与者の氏名、生年月日を証する書類
- (4) ☒ 特定贈与者の戸籍の附票の写しその他の書類で、特定贈与者が 65 歳に達した時以後の住所又は居所を証する書類(特定贈与者の平成 15 年 1 月 1 日以後の住所又は居所を証する書類でも差し支えありません。)
- (注) 1 租税特別措置法第 70 条の 3 ((特定の贈与者から住宅取得等資金の贈与を受けた場合の相続時精算課税の特例))の適用を受ける場合には「平成 15 年 1 月 1 日以後の住所又は居所を証する書類」となります。
- 2 (3)の書類として特定贈与者の住民票の写しを添付する場合で、特定贈与者が 65 歳に達した時以後(租税特別措置法第 70 条の 3 の適用を受ける場合を除きます。)又は平成 15 年 1 月 1 日以後、特定贈与者の住所に変更がないときは、(4)の書類の添付を要しません。

(注) この届出書の提出により、特定贈与者からの贈与については、特定贈与者に相続が開始するまで相続時精算課税の適用が継続されるとともに、その贈与を受ける財産の価額は、相続税の課税価格に加算されます(この届出書による相続時精算課税の選択は撤回することができません。)

作成税理士	(印)	電話番号	
-------	-----	------	--

※	税務署整理欄	届出番号	—	名簿						確認	
---	--------	------	---	----	--	--	--	--	--	----	--

※印欄には記入しないでください。

(資5-42-A4統一)(平26.10)

○「相続時精算課税選択届出書」は、必要な添付書類とともに申告書第一表及び第二表と一緒に提出してください。

「26」と記入してください。

平成 26 年中に特定贈与者(5ページの3(注2)参照)の推定相続人となった場合以外は記入する必要はありません。

平成 26 年分 相続時精算課税を選択する場合のチェックシート

このチェックシートは、平成 26 年中に贈与を受けた財産に対して相続時精算課税を選択することができるかどうかについて主なチェック項目を示したものです。この回答欄の左側のみに○がある場合には、原則として相続時精算課税を選択することができます。

該当する回答を○で囲んでください。

1	贈与者は、昭和 24 年 1 月 2 日以前に生まれた人ですか。	は い	いいえ
2	あなたは、平成 6 年 1 月 2 日以前に生まれた人ですか。	は い	いいえ
3	あなたは、贈与を受けた日現在において贈与者の子である推定相続人（子が亡くなっているときには孫を含みます。）ですか。	は い	いいえ

(注) 住宅取得等のための金銭の贈与を受けた人で、その贈与者が昭和 24 年 1 月 3 日以後に生まれた人の場合には、「平成 26 年分『相続時精算課税選択の特例』のチェックシート」(38 ページ又は 40 ページ参照)を使用してください。

相続時精算課税の添付書類

相続時精算課税（62 ページの「相続時精算課税選択の特例」を含みます。）の適用を新たに受ける場合（4 ページの（ロ）の（注 2）参照）には、相続時精算課税選択届出書に次の表に掲げる書類を添付して提出しなければなりません。

次の表の 1 から 4 までの書類は、贈与を受けた日以後に作成されたものを提出してください。

添 付 書 類	
1	受贈者の戸籍の謄本又は抄本その他の書類で、次の内容を証する書類 ① 受贈者の氏名、生年月日 ② 受贈者が贈与者の推定相続人であること。
2	受贈者の戸籍の附票の写しその他の書類で、受贈者が 20 歳に達した時以後の住所又は居所を証する書類（受贈者の平成 15 年 1 月 1 日以後の住所又は居所を証する書類でも差し支えありません。）
3	贈与者の住民票の写しその他の書類で、贈与者の氏名、生年月日を証する書類
4	贈与者の戸籍の附票の写しその他の書類で、贈与者が 65 歳に達した時以後の住所又は居所を証する書類（贈与者の平成 15 年 1 月 1 日以後の住所又は居所を証する書類でも差し支えありません。） (注) 1 「相続時精算課税選択の特例」(62 ページ参照) の適用を受ける場合には、「贈与者の平成 15 年 1 月 1 日以後の住所又は居所を証する書類」となります。 2 上記 3 の書類として贈与者の住民票の写しを添付する場合で、贈与者が 65 歳に達した時以後（「相続時精算課税選択の特例」の適用を受ける場合を除きます。）又は平成 15 年 1 月 1 日以後、贈与者の住所に変更がないときは、4 の書類を提出する必要はありません。

(注) 受贈者が相続時精算課税選択届出書を提出する前に死亡している場合の提出書類については、税務署にお尋ねください。

Q & A 不動産取得税はかかりますか。

問： 相続時精算課税に係る贈与により取得した不動産の価額が相続時精算課税の特別控除額以下であっても、不動産取得税（地方税）はかかるのでしょうか。

答： 贈与により取得した不動産の価額が相続時精算課税の特別控除額以下でも、不動産取得税（地方税）はかかります。詳しくは都道府県税事務所にお尋ねください。

Q & A 相続時精算課税選択届出書の作成

問： 私は父と母から財産の贈与を受け、それぞれから贈与を受けた財産について相続時精算課税を選択しようと考えています。その場合、相続時精算課税選択届出書は、父と母それぞれに作成しなければならないのでしょうか。

答： 父と母それぞれに作成する必要があります。相続時精算課税選択届出書は、贈与をした人ごとに作成しなければなりません。